

風しん予防接種についての説明書（風しんの追加的対策）

1 風しんについて

風しんとは、風しんウイルスの感染によっておこる急性熱性発疹症です。潜伏期間は2～3週間で、主な症状として、発疹、発熱、リンパ節腫脹が認められます。症状は比較的軽く、約15～30%の人は不顕性感染でおわることが知られています。しかし、まれに血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することがあり、軽視できない疾患です。特に、妊娠20週までの妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴などの先天性風しん症候群の児が生まれることがあります。

2 麻しん風しん混合（MR）ワクチンについて

麻しん風しん混合（MR）ワクチンは、麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。接種を受けた人の95%以上に感染予防に必要な抗体ができると言われています。以前に比べると、麻しん風しんの流行が減少し、野生株との接触によるブースター効果が期待できないことから、ワクチン接種をしたにもかかわらず、感染してしまった例も多くみられていますが、重症化することはないと言われています。

3 ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状（疼痛、腫脹、硬結、熱感等）です。稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症があります。

4 予防接種を受ける前に

（1）一般的注意

気にかかることや、わからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。現在、病気などで治療中の方、今までに免疫状態の異常を指摘されたことのある方は、担当医師とよく相談し十分に納得して接種を受けましょう。

（2）予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

（3）予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれがある方

（4）接種を受けた後の注意事項

- ①接種を受けた後、急な副反応が起こることがありますので接種後30分間はその場で様子を見るようにしましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後、生ワクチンでは4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ④このワクチンの接種後、生ワクチン（水痘、おたふく）を接種する場合は、27日間以上あける必要があります。新型コロナワクチン接種を受ける場合は前後2週間他のワクチンを接種できません。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

5 副反応が起こった場合

重篤な副反応が生じた場合、厚生労働省が予防接種と因果関係があると認めた場合に、予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。